

第 6 回南陽市教育委員会会議録

日時：令和 7 年 6 月 2 5 日（水）

午前 1 0 時 0 0 分～ 1 1 時 3 0 分

場所：南陽市役所 庁議室

出席者

一 番	山 岸 俊 道	二 番	鎌 田 一 郎
三 番	池 田 めぐみ（欠席）	四 番	相 澤 裕 子

説明のため出席した職員

管理課長	鈴 木 博 明	学校教育課長	安 達 心
社会教育課長	田 中 聡	史跡文化主幹	角 田 朋 行
管理課長補佐	金 子 ちあき	学校教育課長補佐	志 賀 俊 介
学校教育課指導係長	佐 藤 由紀子	学校教育課指導主査	高 橋 栄 介
職務のため出席した職員	佐 藤 光 緒		

議 事 日 程

開 会

- 日程第 1 会議録署名委員の指名
- 日程第 2 会期の決定
- 日程第 3 議第 3 2 号 南陽市児童生徒等就学援助要綱の一部を改正する要綱の
制定について
- 日程第 4 協 議 通学区域（学区）変更について
- 日程第 5 諸般の報告
- 日程第 6 業務報告
- （1）管理課 （2）学校教育課 （3）社会教育課

そ の 他

- （1）連絡事項

次回定例教育委員会 令和 7 年 7 月 2 8 日（月）午前 1 0 時

閉 会

開 会

日程第1 会議録署名委員の指名

教育長が山岸俊道委員と鎌田一郎委員を指名

日程第2 会期の決定

教育長が会期を本日1日限りとすることを決定

日程第3 議第32号

南陽市児童生徒等就学援助要綱の一部を改正する要綱の制定について

- ・学校教育課長が、要綱の改正案について説明
- ・国の支給項目変更に準拠するために制定する。
- ・南陽市児童生徒等就学援助要綱の別表のうち、小学校のオンライン学習通信費を14,000円から15,000円、中学校の卒業アルバム代等を8,800円から10,000円、中学校のオンライン学習通信費を14,000円から15,000円にそれぞれ改正する。

(原案のとおり承認)

日程第4 協議 通学区域(学区)変更について

- ・学校教育課長が別紙資料により、通学区域(学区)の指定変更者について説明

(原案のとおり承認)

日程第5 諸般の報告

教育長より報告

- ・南陽市小中学校連合校長会について
6月3日に行われたことを報告
良い緊張感を持って学校経営を行う重要性を強調し、組織に余裕がありすぎることで危機感が薄れる点に触れた。

県内高校の教諭が同窓会費を着服した報道を受け、校金の取扱いについて改めて注意喚起を行ったことを報告

先生方の働き方改革について、簡素化・スリム化を進める中で、地域との繋がりまで希薄になる等削減が行き過ぎていないか見直しを行うよう促した。

校長会後の人事評価面談で、校長先生方と個別に面談を行ったことを報告

・ 南陽市議会の6月定例会について

6月2日から6月20日まで行われたことを報告

一般質問について、教育委員会関係では大きな質問はなかった。

小中学校の統廃合、郷土理解等のための市内文化財に関する取組、公民館のコミュニティセンター化、南陽高等学校の存続に関する質問があり、各担当課長から答弁があったことを報告

・ 東置賜地区中学校総合体育大会について

6月14日と15日に行われたことを報告

天候は雨だったものの、中学生の熱戦が繰り広げられ、1人1人が頑張る姿が非常に印象的だった。

部員数・チーム数の減少を受けて、少子化・人口減少の進行を感じた。

・ 南陽みらい市長について

6月13日に、南陽高校2年生のシランカカワイさんが、みらい市長として初めて登庁したことを報告

出迎えられたシランカみらい市長は感激した様子であったことを報告

シランカみらい市長は、白岩市長から花束を、教育長から当選証書を受け取り、その後懇談を行った。

6月28日に第1回みらい議会の開催が予定されている。

日程第6 業務報告

管理課長、学校教育課長、社会教育課長、史跡文化主幹より報告

各課の議案書資料に基づき、業務報告を行った。

学校経営における緊張感について

相澤委員

- ・緊張感についての話を受けて、教員数の減少によりかえって苦勞しているのではないと思うが、「余裕がある」とは具体的にどのような状況か確認したい。

⇒**教育長**：「余裕がありすぎる」という意味であり、余裕は必要だが余裕がありすぎると緊張感が薄れてしまうと考えている。

相澤委員

- ・多くの業務がある中で、先生方には本当に余裕があるのかと疑問に思ったため質問させていただいた。

⇒**教育長**：業務の繁忙期と閑散期が存在することを踏まえつつ、気を抜きすぎている時期もあると感じている。

良い意味での緊張感の重要性を改めて強調した。

働き方改革について

鎌田委員

- ・校長会後の個別面談における校長先生方の反応や受け止め方について教えていただきたい。

⇒**教育長**：各学校が既に様々な取組を行っているため、更に働き方改革を求められると厳しいと感じている校長先生が多かった。

働きやすさばかりを追求すると、働きがいなくなる可能性もある。

鎌田委員

- ・働き方改革に対する取組、工夫は良いと思うが、成果が伴わなければ意味がないというジレンマを校長先生方は持っているのか。

⇒**教育長**：ジレンマを持っていると考えている。

鎌田委員

- ・言いにくいことを避けお互いの良いところを褒め合うだけの雰囲気があることで、働き方改革が進んでいないのではないかと感じる。
- ・校長先生方の具体的な悩みが伝わってこないが、このような現状をどのように捉えているか確認したい。

⇒**教育長**：働き方改革の成果が上がらない実態を認識している。

魔法のような解決策はなく各学校の実態に合わせた工夫が必要であり、校長先生方は先生方のことを考え努力していると捉えている。

小学校低学年における学力低下等について

鎌田委員

- ・小学校低学年の学力低下の原因についてどのようなことが考えられるか。

⇒**学校教育指導係長**：入学当初から登校しぶりの傾向がある子供が増加しており、基礎的な学習内容が身に付いていないことが原因の1つであると考えている。

授業時間が学校生活の中で最も長いため、授業内容も関わってくると捉えている。

鎌田委員

- ・高学年に対する指導の負担や、普通学級を持つには不安が残る等の理由で、先生方が低学年や特別支援学級へ配置される傾向はあるのか。

⇒**学校教育課長**：人員不足のため、ベテランの方や初任者に関わらず適材適所で配置せざるを得ない現状がある。

低学年の学力低下については、幼児教育からのつながりが重要であり、「手はお膝に」といった昔ながらの教育を変えていく必要があると考えている。

相澤委員

- ・就学前の教育ばかりに目が向けるのではなく、0歳児からの継続的な教育が重要だと考えている。
- ・幼児期の自己肯定感を育てるために、保育園・幼稚園の先生方の意識改革や研修を行っていただきたいと思う。

鎌田委員

- ・小学校低学年の教育に対する熱量の低下を心配している。
- ・高学年の対応を優先することで低学年の教育が手薄になる傾向があるため、幼児期から丁寧に教育を行うことが重要だと考えている。

相澤委員

- ・子供のやる気を引き出すには、子供を受け入れる姿勢が重要だと思う。
- ・地域総合型教育において、教育委員会の各課はつながりがあり、子供を取り巻く全ての環境の連携が重要であるが、中でも、学校によっては放課後子供教室との連携不足が見られる。

⇒**学校教育課長**：学童や放課後子供教室、家庭等子供を取り巻く全ての環境が重要であるが、それぞれの立場を尊重した上で、対話と協議を重ね連携を強化していく必要がある。

課ごとに分かれて仕事を行っていることも連携不足の一因だと考えている。

中学校の部活動と地域クラブについて

鎌田委員

- ・ 中学校の部活動ではなく地域クラブに所属する生徒が増加している。
- ・ 地域クラブは部活動と異なるため、地区総体とは関わりがないというような現状は実際にあるのか。
- ・ 部活動と地域クラブの関係を考えると、地区総体は以前ほど大きな大会とは言えないのか確認したい。

⇒**学校教育指導主査**：地区総体の両日が登校日扱いではなくなり、生徒によっては応援に行かないケースもある。

地区総体に向けた学校全体の盛り上がりはあるものの、自宅で仲間を応援する生徒もいる。

クラブ活動への参加を優先する行動に変化していると思われるが、地区総体に登録されたクラブもあり、別会場で県予選会等が行われるケースもあることを踏まえると、同じ中学生として目標に向け頑張る気持ちは維持されていると認識している。

市内中学校の現状について

鎌田委員

- ・ ある市内中学校について、肯定的な気持ちで学校生活を送っている生徒とそうでない生徒の二極化が起きているのではないか。

⇒**学校教育課長**：二極化は起きていないと認識している。

しかし、運営委員会等を開催し先生方の空きコマを設けている現状があり、情報共有や組織の動き、研修の機会の減少等の課題が見られるため、教育や事務手続き等に影響を与えている可能性について、校長先生と共有したところである。

鎌田委員

- ・ 以前の当該中学校は、先生方と生徒それぞれの個性が活かされ学校全体に勢いがあったように思う。
- ・ 近年、その雰囲気は薄れていると感じており、生活指導上の課題や様々な事案の発生が懸念されるのではないかと心配している。

⇒**学校教育課長**：参考にさせていただきたい。

荻小学校の現状について

相澤委員

- ・荻小学校の現状について教えていただきたい。

⇒**管理課長**：グラウンドの遊具撤去や校内備品の処分を予定している。

移管状況について、他校で必要なものは移管済みであり、その他音楽室の楽器類は吹奏楽団に、絵本は小規模保育所に渡したところであるが、残りのものについては地元住民向けに公開し、必要なものを持ち帰ってもらう予定である。

国庫補助金の申請中で、承認されれば11月から内装工事に着手し、翌年4月のプレオープンを経て5月からの運用開始を目指している。

南陽高校の存続について

相澤委員

- ・高畠高校存続に向けた取組について話を聞いたが、南陽高校の存続について担当部署はどこになるのか。
- ・地域住民に挨拶を返してくれる生徒のことを考えると、南陽高校がなくなってしまふとしたら残念だと思う。

⇒**教育長**：南陽高校の存続は県の教育委員会が担当となる。

鎌田委員

- ・市が南陽高校の存続に対して無関心ではないかと心配しており、高畠町の積極的な取組と比較すると、力の入れ方に差があると感じる。
- ・実質的な対策が不足しているのではないか。
- ・直接の担当ではないことは理解しているが、南陽市の教育に関することであるため、市の教育委員会も関与し、市長と連携の上具体的なビジョンを見据え行動することが必要ではないか。

⇒**教育長**：議会でも質問が挙がったように、南陽高校の存続について心配の声があり、市役所内でも同様に懸念していると認識している。

高畠町、白鷹町等他市町村の財政支援策をもとに、南陽市でも支援を検討しているが、実施には至っていない。

相澤委員

- ・その他お米券や商品券の配布等の支援策が行われていると聞いた。

鎌田委員

- ・南陽高校の存続に向けた戦略や主に中心となる部署が見えてこない。

相澤委員

- ・議員の方が市長に南陽高校存続の希望を伝えることで、状況改善に繋がるのではないかと。

⇒**教育長**：市長も南陽高校の存続問題について危機感を持っている。

相澤委員

- ・危機感を持つだけではなく、行動しなくては前進できないのではないかと。

鎌田委員

- ・市長が懸念を示しているとしても、具体的な行動が見られないため、後手に回り手遅れになるのではないかと心配している。
- ・高畠高校と南陽高校では交通の便や校舎の新しさ等状況も異なるが、やはり南陽高校の存続を願っている。
- ・地元高校の有無が地域経済に大きな影響を与えることについて、白鷹町では危機感を持って取り組んでいると聞いた。

⇒**教育長**：意見等を市長にお伝えする。

学校給食について

鎌田委員

- ・物価高騰が続く中で、南陽市の学校給食の質は問題ないか確認したい。

⇒**管理課長**：以前テレビで「主菜1つ、唐揚げ1つ」といった給食の質に関する報道があったが、南陽市では主菜と副菜を必ず用意し見た目にも配慮していること、唐揚げは2個提供していること等から、現状では給食の質の低下は生じていない。

その他（１）連絡事項

次回定例教育委員会について管理課長補佐より連絡

教育委員及び教育長の研修会について

- ・学校教育課長補佐より、7月11日に開催される令和7年度東北6県市町村教育委員会連合会主催の教育委員、教育長の研修会について説明
- ・前日の7月10日は、いわき市内の教育経済研修施設「E l e m」と、研修施設に隣接するいわき市美術館の視察研修を行う予定である。

- ・教育委員の方へ関係資料の確認を依頼した。

沖郷小学校訪問について

- ・学校教育課指導係長より、本日6月25日の午後から予定されている沖郷小学校訪問について、詳細な日程を説明
- ・当初4年生と5年生の児童が参加する予定だったが、学校の意向により5年生と6年生の児童に変更する。

教育長

- ・5年生と6年生への変更は、学校の要望という認識でよろしいか。

⇒**学校教育課指導係長**：認識のとおりである。

他の学年と下校時刻の差が15分程度であり、長時間残るわけではないことから要望があった。

閉 会

教育長が令和7年6月16日付け南陽市教育委員会告示第9号をもって招集した第6回南陽市定例教育委員会の閉会を宣言